

大阪府・兵庫県における緊急対策の提案(案)

現状分析

- 全国的に2月14日頃より感染者の増加が加速している。
- 大阪府、兵庫県の全域において
 - － 感染源不明(リンクなし)症例が感染世代(5日程度)毎に増加。
 - － 1人が生み出す2次感染者数の平均値が兵庫県で1を超えている。
⇒ 見えないクラスター連鎖が増加しつつあり、感染の急激な増加が既に始まっていると考えられる。
 - － 試算では、19日までの間に患者 78人(うち重篤者 5人)
次の7日間(20~27日)に患者 586人(うち重篤者 30+9人)
次の7日間(28~3日)に患者 3,374人(うち重篤者 227人)
⇒ 感染者報告数がこれから急速に増加し、来週には重症者への医療提供が難しくなる可能性あり。

必要な対策の方向性(案)

- 社会的隔離により見えないクラスター連鎖を分断し、感染者の爆発的増大の回避・抑制をはかる

段階1 警戒段階

大阪府・兵庫県全域で、今後3週間の

- － 市民の感染対策の強化の呼びかけ
(有症状者の自宅療養、3要素を避ける、手指衛生の徹底等)
- － 学校休校・イベント中止の呼びかけの継続
- － 大規模イベントの自粛の呼びかけ継続
- － 感染拡大リスクの高い(3要素を満たす)施設の使用自粛、集会の自粛の呼びかける
- － 大阪府・兵庫県内外の不要不急な往来の自粛を呼びかける。

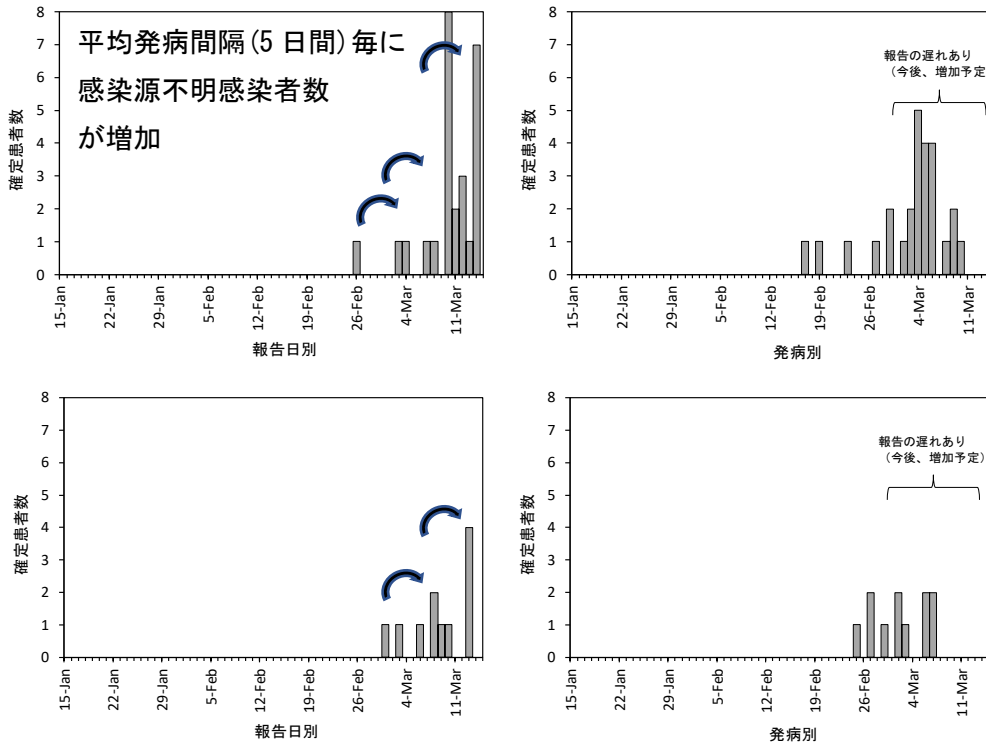
段階2 積極的介入段階

- － 全域の不要不急の外出自粛の要請(緊急事態宣言も考慮)
- － 施設の使用制限(緊急事態宣言も考慮)

- 医療提供体制の確保
 - － 重症者の医療提供体制・医療従事者の感染管理体制を早急に整備する

図 感染源不明（リンクなし）症例が感染世代ごとに増加している

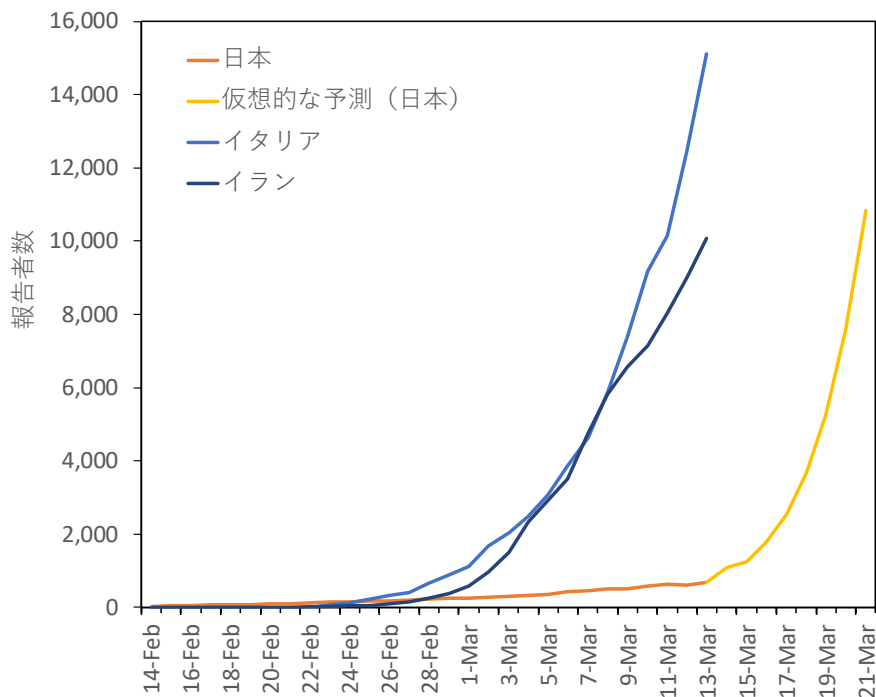
- 新型コロナウイルス感染症の平均発病間隔は4~5日間
- 平均発病間隔程度の日数毎に感染源不明感染者が出現しており、その集積は世代ごとに増加傾向
- コミュニティにおいて見えない感染の拡大が起きている可能性を示唆。
- 1~2世代分放置すると爆発的に感染者数が増加するリスクが上昇



大阪府（上）と兵庫県（下）におけるリンクのない感染者数の推移（左が報告日別、右が発病日別）

図 感染者報告数は急速に増加する

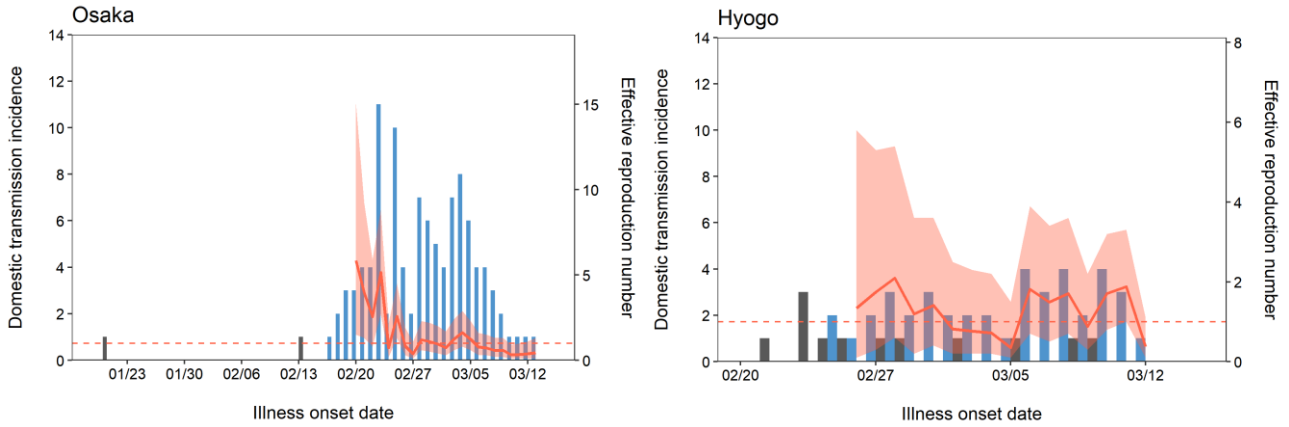
- 欧州などでは、国レベルでの急速な感染者の増加が見られている。
- 1つの地域で集中的に、指数関数的に増加することが特徴。2～3日で新規患者数が倍増
- 急速な増加が始まると、増加を認識してから1週間以内に圏域内の医療体制に莫大な負荷。



日本、イタリアやイランにおける流行と仮想的な予測

図 兵庫県では実行再生産数が常に1を上回る

大阪府では次第に1を下回る傾向（左図） 兵庫県では常に1を上回っている（右図）



大阪（上）・兵庫（下）における実効再生産数（1人あたりが生み出す2次感染者数の平均値）

図 全国的に安定して指数関数的に増加しつつある

